

IWATACHIZAKI SUSTAINABILITY REPORT 2022-2023



岩田地崎建設株式会社 IWATA CHIZAKI INC.

〒060-8630 北海道札幌市中央区北2条東17丁目2番地 TEL 011-221-2221, FAX 011-222-7682 URL <https://www.iwatachizaki.jp/>
2,Kita 2-jo Higashi 17-chome, Chuo-ku, Sapporo Hokkaido 060-8630 Japan TEL +81-11-221-2221, FAX +81-11-222-7682

■ 詳しい活動内容を企業Webサイトに公開しています

「安心して豊かな社会環境づくりに貢献する」



企業WebサイトURL

<https://www.iwatachizaki.jp/>

紙面の都合で掲載できないコンテンツや
その他の事業活動・データについては
岩田地崎建設Webサイトに掲載しています。



この印刷物は北海道の風力で発電された
グリーン電力で印刷されています。

安心して豊かな社会環境づくりに貢献する



IWATACHIZAKI SUSTAINABILITY REPORT
2022-2023



岩田地崎建設は、「安心で豊かな社会環境づくりに貢献する」というミッションのもと、 永続的な社会・地球環境の構築を目指し、これらの計画を着実に実践していきます。

サステナブル社会実現のために取り組むべき課題を抽出し、解決へ向けた**目標および指標(KPI)**を設定しています。
企業活動を通じて達成すべき目標を明確に示すと共に、関係者の皆さまにもその取り組み状況を年度ごとに報告します。

岩田地崎建設株式会社 2022～2023年度 SDGs取り組み状況と目標設定 (2022年4月1日～2023年3月31日)

課 題	キーワード	活 動 内 容	2022年度 指 標 (K P I)	2022年度 目 標	2022年度 実 績	評価 (※1)	2023年度 指 標 (K P I)	2023年度 目 標	
持続可能な企業活動 	コンプライアンスの推進 ガバナンスの強化	役職員へのコンプライアンス 研修の実施	コンプライアンス研修実施回数	4回/年	7回/年	○	コンプライアンス研修実施回数 (本社、各支店での開催)	8回/年	
		コンプライアンスの徹底	重大な違反の件数	0件/年	0件/年	○	重大な違反の件数	0件/年	
	情報セキュリティの強化	セキュリティに関しての 情報発信、管理室での常時監視	情報漏えい(セキュリティ事故)件数 IT資産監視システム等の導入	0件/年 1件/年	0件/年 1件/年 (Sky導入検証中)	○	情報漏えい(セキュリティ事故)件数 継続的改善・強化	0件/年	
		情報セキュリティポリシーの構築	セキュリティに関する社内規定の策定		策定中	—	継続	策定中	
	BCP(事業継続計画)の推進	前年度訓練の評価に基づく、 より実践的な災害発生時の行動確立	BCP災害対応訓練及び課題の洗い出し ハード・ソフト両面の防災能力向上検討	1回/年	1回/年	○	継続	1回/年	
地域・社会への貢献 	学校教育分野における活動	インターンシップの取り組みの深化	インターンシップ要望に対する受入率	100%	100%	○	インターンシップの満足度向上	指標設定	
		職場体験学習等の開催・協力	開催・協力件数	3件/年以上	3件/年	○	開催・協力件数	3件/年以上	
	地域・社会への貢献	地域の歴史・文化活動への参画	イベント・地域貢献活動への参画件数	150件/年以上	160件/年	○	イベント・地域貢献活動への参画件数	150件/年以上	
		災害時の地域への対応	ハザードマップ等に関する情報発信		検討中	—	地域へ貢献できる手法の検討		
環境保全への取り組み 	生物多様性の保全への 取り組み	緑の水田プロジェクトの実施	プロジェクトの継続と拡充		継続推進	—	プロジェクトの継続と拡充		
		緑の森林プロジェクト	プロジェクトの継続と発展		継続推進	—	プロジェクトの継続と発展		
		CO ₂ 排出量の削減	サプライチェーン排出量の測定方法確立 削減目標の設定		検討中	—	算定システム導入、試行、スコープ1、2の排出量検証 スコープ3を含めた排出量の削減目標の設定		
快適な職場環境の実現 	週休二日(現場閉所)に 向けた取り組み	週休二日(現場閉所)の 実現に向けた環境整備	全作業所の4週8閉所の継続推進		継続推進		全作業所の4週8閉所の定着化		
	多様な人材の エンゲージメントの向上	多種多様な人材の確保 活躍推進	ダイバーシティの推進 多様性のある人材の確保育成に向けた 新卒女性社員・中途社員の採用比率	25%	30%	○	ダイバーシティの推進、多様性のある 人材の確保育成に向けた新卒女性社員・ 中途社員・外国人の採用比率	25%	
		ワーク・ライフ・バランスに向けた 職場環境整備	働きがいのある職場環境づくりを目指した取り組み		検討中	—	働きがいのある職場環境づくりを目指した 具体的な取り組み推進		
		社員への教育制度の充実	人事評価制度の見直し 管理職への考課者研修実施	1Set(3回)	1Set	○	人事評価制度の見直し 管理職への考課者研修実施	1Set	
持続可能な建設業の技術 	土木・建築・環境分野の技術	積雪寒冷地ならではの技術の活用 スマート技術(ICT技術等)の導入推進 脱炭素社会に向けた新技術の推進	有効な技術の活用推進		継続推進		有効な技術の活用推進		
		持続可能な取り組みへの拡大	IECA(イエカ)(※2)、カーボンニュートラルに向けた活動、 廃棄物のリサイクル等を推進、 作業所アクションプロジェクト(ポイント制度の策定)		継続推進		SDGsアクションポイントシステム開始		
	まちづくりへの貢献	街並みと賑わいを創出する 再開発事業への参画	事業推進を担うパートナー としての事業継続件数	3件/年以上	4件/年	○	事業推進を担うパートナーとしての事業継続		
	災害復旧への貢献	被災した施設の 早期機能復旧への貢献	防災協定の締結 復旧・復興への積極的協力		災害復旧工事 依頼に対する対応 100%	100%	○	防災協定の締結 復旧・復興への積極的協力	災害復旧工事 依頼に対する対応 100%
	パートナーシップの推進	産学官連携プロジェクトの推進	異業種企業との対話、共同研究実施、 セミナー等への出席率	90%	88%	○	異業種企業との対話、共同研究実施、 セミナー等への出席率	90%	
持続可能な社会の実現 	国際協力の推進	グローバルな視点における持続 可能な社会実現のための海外支援	開発途上国のプロジェクト継続件数	2件/年以上	5件/年	○	開発途上国のプロジェクト継続件数	2件/年	

※1・・・ 評価の目安 ○：80%以上の達成 △：50～80%の達成 ×：50%未満の達成 —：評価対象なし ※2・・・ IECA(イエカ) IWATA CHIZAKI ECo Action(岩田地崎建設環境活動)

2022年に迎えた創業100周年を節目に
ミッション・ビジョンが策定されました。
私たちは、次の100年へ向け、挑戦を続けます。

MISSION
社会における私たちの存在意義

安心で豊かな社会環境づくりに貢献する

VISION
私たちの志・目指す姿

人と自然の
最適環境をつくる企業

技術と経験と創意を集結し、
時代に合わせた人のくらしと
未来のあり方を追求します。

地域から
頼りにされる企業

地域とのつながりを大切にし、
真に頼られ、
親しまれる企業を目指します。

個々の成長を
促す企業

互いを認め合い、一人ひとりが
個性や能力を発揮できる、
チャレンジ精神と創造性に
あふれた社内風土を築きます。

チャレンジ

ZERO
カーボンニュートラル
の実現
気候変動リスクや
自然災害リスク低減への貢献

安心安全な暮らし
の実現
本当の安全と安心を
手にする未来へ向けて

循環型社会
の実現
廃棄物ゼロを
目指して

自然と共生する社会
の実現
人と自然が共生できる
未来づくりを

未来へ向かって
岩田地崎建設が目指すSDGs





カーボンニュートラルの実現を目指して

カーボンニュートラルに向けた取り組みは、人類において喫緊の課題であり、一人ひとりの意識と行動の改革が必要です。GHG(温室効果ガス)削減を目指し、現在取り組んでいる活動や目標などを紹介します。



CO₂排出量の算出と削減の目標設定

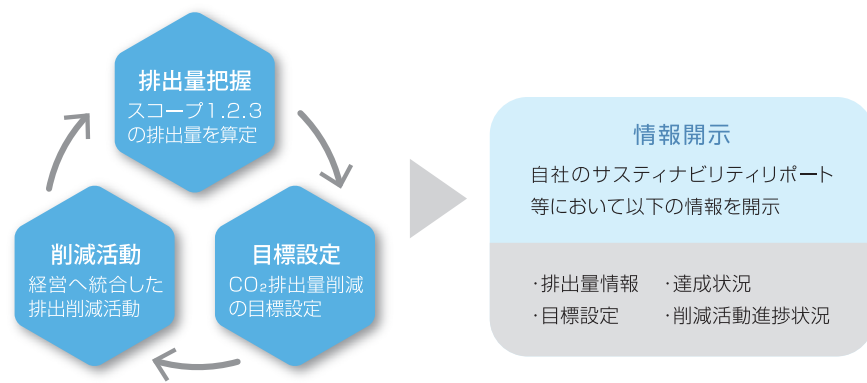
地球温暖化対策の推進に関する法律により、温室効果ガス排出量算定・報告・公表が義務付けられて以降、企業の排出量の把握は定着してきております。しかし近年では、「自社の排出量の算定」から「サプライチェーン全体の排出量把握」へと拡大する動きが加速しています。

当社でも、事業活動におけるCO₂削減をより一層推進するため、サプライチェーン排出量の算出方法確立へ向け準備を進めており、2022年度は、本社・各支店のScope1・2の算出が完了いたしました。

2023年度に、全社CO₂排出量の算出および2030年までのCO₂削減目標の設定を目指しています。



脱炭素に向けた取り組みの流れ



サプライチェーン排出量とは

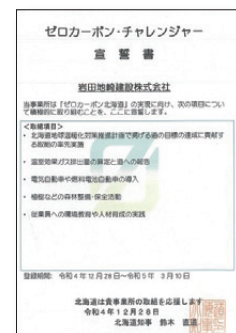
事業者の原料調達・製造・物流・販売・廃棄など一連の流れ全体(サプライチェーン)における組織活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量のことを指します。Scope1(直接排出量)、Scope2(エネルギー起源間接排出量)、Scope3(その他間接排出量)から構成されています。

ゼロカーボン・チャレンジャー宣言

ゼロカーボン・チャレンジャーとは、2020年3月に北海道知事が表明した、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン北海道」の実現に資する取り組みを宣誓し、実践する事業者のことです。北海道では、2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度から48%削減、2050年には実質ゼロとし、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現を目指しています。

当社でも、ゼロカーボン・チャレンジャーを宣言し、全社的な取り組みを推進しています。

私たちはこれまで以上にCO₂排出量削減を目指した取り組みを積極的に展開していきます。



ゼロカーボン・チャレンジャー宣言書

SDGsアクションポイントシステムを導入



当社では、具体的なSDGs推進活動の一貫として、新たに「サステナブル作業所」を認定する取り組みを開始しました。

これは、作業所での優れた環境活動(仮設事務所への再生可能エネルギーの導入、発生土のリサイクル、騒音・振動対策など)を行った際に、当社の定めた評価基準をクリアした作業所にインセンティブを付与する社内システムです。

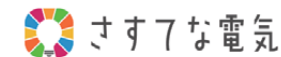
この取り組みを通して、作業所単位での脱炭素化・循環型社会などの実現を目指し、サステナブルな取り組みを推進していきます。

サステナブル認定作業所には認定マークを掲示。
認定マークは着脱可能で、工事完了後は他作業所で再利用します。

再生可能エネルギーの現場活用推進

① 環境にやさしい電気エネルギーの使用

東京支店では、太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーを持つ環境的な価値を与えられた「非化石証書」を購入することによってCO₂排出量を実質ゼロとした電気を使用しています。東京支店内のエネルギー、東京支店の作業所への展開を開始しています。



② バイオディーゼル燃料の利用

飲食店等で不要になった使用済み食用油(植物性サラダ油)を回収・精製したバイオディーゼル燃料を、作業所内の発電機の燃料として使用する取り組みを開始しました。身近なところからCO₂削減にむけて貢献しています。



③ ソーラーパネル付き現場事務所の設置



建設現場に設置する仮設事務所に、ソーラーパネルがついた「ソーラーシステムハウス」の導入を開始しました。事務所建設時の電気工事が不要となることで設置時の建設時間を縮減できる他、太陽光で作られた自然エネルギーを事務所の照明や電力として使用できます。環境にやさしくCO₂の削減に配慮した事務所設置が可能となるため、これからも積極的に導入を推進していきます。



安心安全な暮らしの実現を目指して

地域との連携や周辺環境の情報告知等、建設業ができることを最大限活かした活動、安心安全な暮らしの実現が1歩進む、そのような取り組み事例を紹介します。



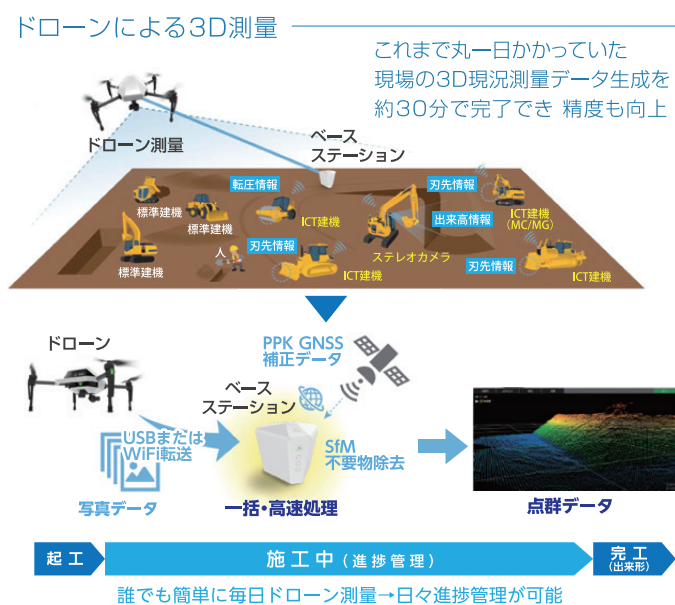
災害復旧に関するDX化、生産性向上への取り組み

近年の自然災害は、地球温暖化の進行などにより、大規模化・激甚化しています。インフラの被災は、そこで暮らす人々の生活基盤を壊してしまうため、迅速な対応や早期復旧が望まれます。

そこで、当社では災害復旧工事にドローン測量などのICT技術を積極的に導入し、工期短縮、リアルタイム計測などに努めています。

またこういった災害復旧工事で使用した計測システムやノウハウを通常工事にも活用することで、工期短縮やそれにもなう脱炭素化にも貢献しています。

ドローンによる測量は現場全体を短時間でカバーするため、多数の建機や人が作業する施工現場でも、工事全体の施工進捗管理および土量管理を日々簡単にを行うことができるものです。



BCP対策・震災対応訓練

2022年9月、本社・本店管轄事業所及び作業所において「十勝沖を震源とする震度6強の地震（札幌市近郊で震度6弱を観測）」の発生を想定した震災対応訓練を実施しました。

訓練では、Biz安否確認アプリを用いた安否確認や災害対策本部の設置・参集訓練、また、各事業所と工事作業所の被災状況確認や報告訓練ならびに停電時対応などの震災対応初動訓練を行いました。

さらに、建築復旧班は工事作業所における二次災害の危険がある場所への立ち入り禁止措置や負傷者の搬送訓練を実施し、災害対策本部では新しい試みとして、本部長および各班長の不在時を想定して、代理者を任命し、被災状況確認や報告訓練を行いました。その他、学校改築中の工事作業所では、建築復旧班とリモートにより被災状況を共有し、支援物資の要請を行う訓練なども実施しました。

あらゆる状況を想定した訓練を実施し災害時に備えると共に、訓練結果をもとに課題の抽出を行い、持続的に質の高い防災体制を構築していきます。



支援物資要請に対応するシミュレーション訓練



二次災害防止のため危険箇所への立ち入り禁止措置を講じる訓練

災害復旧 i-con奨励賞を受賞した取り組み

北海道厚真町の厚真ダム災害復旧工事にて、コンクリート工におけるi-Constructionの取り組みとして「プレキャスト埋設型枠の使用」を実施しました。取水放流施設工の型枠にプレキャスト埋設型枠を使用することで、施工効率が向上し工期短縮を実現、災害リスクも低減しました。

型枠は通常、木材で製作しますが、「プレキャスト型枠」は繊維を練り込んだ超高強度繊維補強コンクリートの埋設パネルを組み合わせてボルトで固定するため、熟練の作業員（大工等）以外でも設置作業が可能となります。

また、脱型枠・外部足場・型枠支保工も不要となることで、省人化・省力化にも資する取り組みとなり、これらが評価され、i-con奨励賞を受賞しました。

最大震度7を観測した北海道胆振東部地震では大規模な斜面崩壊の発生に伴い多くのインフラ施設などが被災しました。

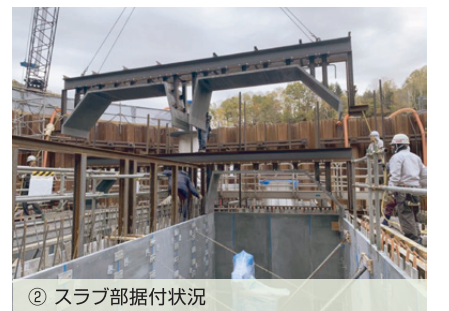
当社は早期のインフラ復旧を目指すため、災害直後から様々な復旧活動に従事してきました。災害復旧工事は緊急を要する工事となるため、現場状況に応じて施工班の増加や昼・夜間での施工など、難しい工程管理が必要とされる場面も生じます。

しかし私たちは、どんな状況下でも安全に無災害で施工するため、ICT技術を活用した作業の省力化や生産性の向上を意識し、安全に早期復旧を目指すよう日々努力を重ねています。

水田の多い厚真町ではダムは重要な水源であり、早期の復旧が望まれています。私たちはこれからも、地域の安全・安心と災害からの早期の復旧復興を目指し、挑戦を続けます。



① 壁部設置完了



② スラブ部据付状況



③ スラブ部設置完了

災害復旧工事にも環境配慮型重機の使用を推進しています

メリット

最新規制をクリアした新型の重機を使用することにより、より環境に配慮した作業を行うことができる

CO₂削減にも貢献

低燃費油圧システム [SSC]搭載油圧ショベル



省エネ油圧システム [TRIAS]搭載油圧ショベル





循環型社会の実現を目指して

地球にある限られた資源を最大限有効に活用するための技術の活用、産学官連携による地域特有の発生廃棄物の再利用方法検討などを進めています。

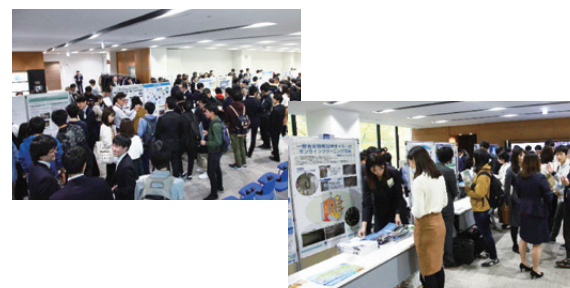


循環型社会の形成に向けたパートナーシップの実現

当社は、北海道大学循環共生システム研究室の寄附講座の研究会へ参画しています。

研究会では「バイオマスコミュニティプランニング」というキーワードをテーマにバイオマスを通じた地域づくり、あるべき姿を実現するための課題抽出などに、自治体も含めた産官学の体制で研究活動を継続しています。

地域から排出される廃棄物を、どのように地域独自の形態で循環させ有効利用するかを、現状の問題と計画、その先の未来の姿を思い描きながら建設会社の視点でサーキュラーエコノミーに資する活動を行っています。



自然と共生する社会の実現を目指して

建設事業活動を行う上では、当該地域のみならず、より広域な範囲での自然・生物への配慮、調和性への配慮が必要と捉え、技術革新と共に新たな生物多様性の創出を目指します。



緑の森林プロジェクト

自然の豊かな恵みを未来の子どもたちに引き継ぐため、計画的な森林整備と道産木材の利用推進等に取り組んでいます



当社では、森林をフィールドとしたCSR活動を「緑の森林プロジェクト」と名付け活動を行っています。

計画的な森林整備は、脱炭素社会・生物多様性保全への貢献、林業・木材産業の振興、水源涵養機能の維持増進、地域の強靱化（土砂災害防止）、海洋環境の保全などにつながる大切な活動です。

2022年度は、脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた地域振興の一環として、北海道岩見沢市にある、万字線鉄道公園の隣地でエゾヤマザクラの記念植樹を行いました。

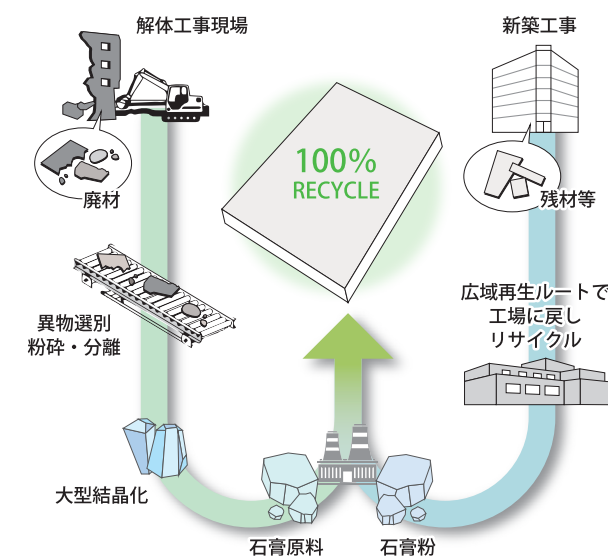
里山の樹林は適切な管理をせず放置すると、山の地表に日光が届かず草木の根が張らないため、土が痩せていきます。間伐した木材を地域に還元できる形で利用し、炭素の固定源である森林の維持管理と拡大をさせる活動、そのノウハウを蓄積することで持続可能な活動を目指しています。

廃棄物のリサイクル推進事例

石膏ボードは壁と天井の下地としてほとんどの建物に使用されており、解体工事にともない多くの廃石膏ボードが産業廃棄物となりますが、解体系廃石膏ボードの再資源化率は低い廃棄物です。

そこで当社は環境省の認定を受けた広域再生ルートでの廃石膏ボードの再生利用量の向上を図っています。広域再生ルートには処理にあたりマニフェストが必要なく、都道府県をまたがった越境移動ができるというメリットがありますので、広域的な視点で見ると再利用率が上がります。

当社は廃棄物の循環利用という観点で、積極的に建設資材の再資源化・再利用の方法を模索していきます。



緑の水田プロジェクト

生物多様性を守り 米の消費拡大や地域産業の活性化を促進する



「緑の水田プロジェクト」は、休耕となっている水田を甦らせ、ニホンアマガエル・コモリグモ・アキアカネ・イトミミズ・ドジョウ・アメンボ・カブトエビ・ホウネンエビ、等多くの生物が生息する水田の生物多様性を保全することを目的としています。

コロナ禍の影響により3年ぶりの開催となった今回は、雨が降った影響により、田んぼのぬかるみに足を取られ、歩くのも一苦労でしたが、参加者一同気持ちよく汗を流しながら、黄金色に実った1反(約300坪)の稲を1時間半ほどで刈り終えました。

米は、その栽培過程で88の工程があるということから、その字の成り立ちがあるといわれるほど煩雑で膨大な工程からなります。

当社は、こういったプロジェクトを新入社員への環境教育の場にも活用し「ものづくりの原点」や「日本人の主食たる米の食文化」を学んでいます。

2022年10月活動「稲刈り」



TOPICS
01

ゼロカーボン北海道シンポジウムにて
パネリストを担当しました

2050年ゼロカーボン北海道の実現に向けて、北海道・自治体や経済界、産業界などによる脱炭素に向けた取り組みが求められています。

今回のシンポジウムでは、最新のゼロカーボンの取り組み事例などを共有し、「ものづくり」から「まちづくり」まで北海道の可能性について参加者とともに考える事を目的に開催されました。

私たちは、このシンポジウムでパネリストを務めるなど、北海道内においてカーボンニュートラルの取り組みを先導していくよう求められています。

私たちはこれからも、環境分野での取り組みや技術の普及活動など幅広い分野での取り組みを継続してまいります。



2022年7月
パネリストとして登壇

TOPICS
03

外国人労働者の採用に向けて

少子高齢化・人口減少が続く日本において、外国人労働者の積極的な採用が今後一層求められていくと予想されます。

当社でも、外国人労働者の積極的なインターンシップや受け入れをすることで、ダイバーシティの推進を目指しています。



当社の新たな目標設定では、外国人労働者を含めた「ダイバーシティ率」を設定し、外国人労働者を受け入れるための基盤づくりも進めています。

ミャンマー人技術者(派遣社員)との測量実習

TOPICS
02

教育施設での環境教育・講義の実施

現在の子どもたちが社会に進出する時には、SDGsの考え方は当たり前になり基盤に根差したものになっていると考えられます。

文部科学省指定事業である「WWLコンソーシアム構築支援事業」のひとつとして、SDGsを主なテーマにしたハイレベルで探究的な学びの研究開発や実践活動の取り組みを行う北海道札幌高等学校にて、建設会社の考えるSDGsについての講演の実施、東京農業大学にて「土と水の科学」をテーマとした講義を実施するなど、将来、地域を支える学生に向けた環境教育等を、作業所での取り組みに加えて積極的に行っています。



2022年7月
東京農業大学での講義



2022年8月 北海道札幌高等学校での講演

TOPICS
04

東北地方最大の建設技術展
EE東北'22に出展しました

東北地方最大の建設技術展「EE東北'22」が開催され、ICT推進部がブース出展しました。

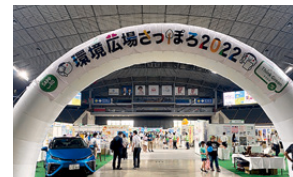
「EE東北'22」は、建設事業に係わる新工法・新材料など時代のニーズに対応して開発された新技術を公開し、その普及を図ることにより、新たな技術開発の促進と、良質な社会資本の整備を通じて、地域社会の発展に寄与することを目的として開催されています。

当社は、VR体験やオンデマンドLTEの紹介などを行い、たくさんの方に新たな建設技術の紹介をさせていただきました。



TOPICS
05

環境広場さっぽろ2022への
ブース出展



北海道最大級の環境・SDGsイベント「環境広場さっぽろ2022」が札幌ドームで開催されました。当社は、「夏休み自由研究応援コーナー」と題して、ペーパークラフトの模型を使い、まちづくりを体験する手作りコーナーを出展しました。

当日は、たくさんの子どもたちが自分の思い描いた家やお店をペーパークラフトタウンに並べ、住みたいまちを作り上げていきました。

また、ステージイベントでも、YouTubeチャンネル「シゴトのトビラ」にて、「北24条大橋上部工2」の作業所での橋をつくる仕事や建設業のSDGsについて紹介している様子が上映されました。



TOPICS
06

「まち未来コンテスト」の開催



「わたしが住みたい未来のまち」をテーマに、小学生を対象とした絵画コンクールを主催しました。

①ひらめく力(アイデア力・大人が予想もしないような柔軟な発想力)、②想像(創造)する力(理想的な未来を頭に浮かべ、言葉とかたちにできる力)、③伝える力(「ひらめき」と「想像(創造)」を第三者に表現する力)を審査のポイントに、子どもたちの自由な発想で描き上げられた作品は、全国から639作品もの応募をいただきました。



2022年12月
札幌駅前通地下歩行空間にて全作品を展示し、表彰式を開催。2日間で約1800名の方々に
お立ち寄りいただきました。

SDGs推進委員会メッセージ



岩田地崎建設が目指す SDGs

「建設事業を通して 様々な社会の問題解決に貢献する」

岩田地崎建設の事業活動である建設事業は、その事業規模や社会的位置づけから、社会と環境全体に及ぼす影響が大きな業種です。

私たちの目標はSDGsへの取り組みや活動をより積極的に展開することで日本の建設業全体が「持続可能な社会の発展へ向け大きく貢献できる産業」へと成長を続けることです。

そのためには、我々一人ひとり、一つひとつの企業の

力だけではなく、多くのお力がSDGsによって束ねられることにより、さらに大きな力で社会的課題の解決につながっていくものと考えています。

2030年までに取り組むSDGsは、今年で半分を折り返したところ。今一度、取り組みを振りかえり、今後どのように進化していくか考えながら、SDGsの体制をより一層強化し、社会課題の解決へ向け挑戦を続けます。